

## 講演会（第 64 回例会）

演題：2018 年福井はこう動く！

### 福井しあわせ元気国体、北陸新幹線、第 2 恐竜博物館

実施期日：平成 30 年 4 月 26 日（木）

会場：アオッサ 706, 707 号室：

講師：福井県議会議員 井ノ部航太氏

参加者：71 名（内新会員 2 名）

**講師のプロフィール** 1974 年東京都生まれ。父は大野市出身の作家井ノ部康之氏。慶応義塾大学法学部卒業後株式会社電通に勤務。中央省庁の広報戦略や自動車・物流関連のブランディング業務に従事する一方、2004 年アテネオリンピック、2008 年北京オリンピックや国際トラック自転車競技選手権などのスポーツイベント関連業務を手がける。2010 年参議院議員通常選挙に福井県選挙区から出馬したが当選ならず、2015 年福井県議会議員に福井市選挙区から立候補して初当選。公職の他に福井県ソフトテニス連盟の副会長、日創研福井経営研究会副会長も務める。

**講演要旨** 通常は県政報告等、県政に関する話が多いが、今回は当会での講演のためにレジュメを作り、それに沿って話をさせて頂くとの断りのもと講演が始まった。

2018 年は福井しあわせ元気国体。大会開催年に当たり、国体は 9 月 29 日～10 月 9 日まで 36 競技、大会は 10 月 13 日～15 日まで 15 競技が、今上陛下御臨席のもと繰り広げられる。昨年度の結果は史上初めて天皇杯 7 位と健闘した。県では選手強化を図ろうと懸命であるが、オリンピックを間近に控えていることもあって選手を思うまま確保できないのが現状である。

今年度の議会での論点としては、第一に第 2 恐竜博物館の建設、第二に教育政策の問題、第三に原子力政策の三つが挙げられる。

第一の問題では 90 億円もの巨費を投じてまで建設する妥当性が問われることになると思う。何故なら他にも 43 億円をかけて平成 33 年度オープン予定の一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）の建設、整備費 14.5 億円をかけ、平成 30 年度オープン予定の年稿ミュージアム（仮称）もある。また、交通インフラが未整備の上に、経済波及効果が限定的ではないのか。私としては人口減少時代に箱物の建設は将来にツケを残すことになり、建設ありきではなく、ゼロベースでチェックをする必要があると思っている。現に福岡県でのスペースワールドの失敗、また、石炭の歴史村観光を目論んだ夕張市では、市そのものが崩壊の現状にある。その二の前は絶対に避けるべきである。（この件では講演後の質問の中で、高齢者の

福祉に費用を回してほしいという強い要望があった)

第二の教育政策では、池田中学で生徒の SOS に気付かなかったのは、行き過ぎた生徒指導を改める機会を見逃したこと、同時に、教師が多忙で生徒に真正面から向き合えなかったことにある。教育の本分は教師が一人ひとりの生徒と向き合って個性を伸ばすことにあるはず。私がかつてサラリーマンのころには月 150 時間の勤務で限界を感じたものだが、部活動では休日の遠征試合の時間を含めて 200 時間を超える教員もいるという。多忙化解消には部活動指導員、学校事務補助員、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーを増やす必要がある。(この件では平成 30 年度予算で大幅な対策費用が確保されているとのこと)。他に学力日本一の実績保持のための努力、全国に先駆けて小学 5 年からの英語教育の導入、公教育を超えた高校入試制度(英語検定)の導入、モンスターペアレンツ(学校現場において、教師や学校の教育方針に何かとクレームをつける保護者)への対応と、解決しなければならない問題が山積している。

第三の原子力政策の問題では、原子力政策そのものは国が実施し、県は発電に協力し、原子力の賛否には言及しないとのこと。今のところ使用済み核燃料の最終処分所がないのに、もんじゅの廃炉で核燃料の循環が断ち切られたままである。今後も原子力発電は利用されるべきであるが、同時に再生可能エネルギーの利用はまだ不十分で、風力発電、太陽光発電、地熱発電等の容量を上げる努力が必要である。原子力の利用は国が責任を負うべきだが、当地は立地条件として西川知事がリーダーシップを発揮すべきと思う。以上議会での論議について触れたが、その他に北陸新幹線敦賀開業まで 5 年となった今、二つの大きな問題に対処しなければならない。その一つは如何に観光客の増加を目論むかであり、二つ目には、いかに地域公共交通を育てるかの問題である。観光客誘致では、今は日本で最低という本県の外国観光客をいかに取り込むかが大きな課題である。そのためには海外での情宣活動に積極的に取り組むこと、小松空港の新規路線開設を強力に後押しすること、さらに受け入れ態勢を整える一つの方策として、県は永平寺の「禅」ブランドを展開してはいる。二つ目の地域公共交通については、当県は一所帯当たりのマイカー保有率が全国一位で、車依存社会であるにもかかわらず、福井鉄道とえちぜん鉄道が日本で初めて軌道線と鉄道線の相互乗り入れを実現し、そのためにその区間の利用客が 3 倍に伸びるなど、福井の公共交通政策は全国から注目されている。今後の課題としては、新幹線が開通すれば北陸本線は県などが出資する第三セクターに移管されることになるが、大阪や名古屋への利便性確保のためにも、また、高岡や魚津衰退の二の舞を踏まないためにも是非特急は残したいものだ。そして JR から資産を譲渡してもらい、新幹線が通ったために生ずる赤字を県が補填するというような事態は絶対に避けるべきである。鉄道会社の商品は「ダイヤ」であることを忘れず、是非利用者の意見を容れてほしいものだ。

スペースの関係で触れられないのが残念だが、講演後白熱した質疑応答が制限時間を超えて展開された。各質問に井ノ部氏は丁寧に回答されていた。 以上 大野 記